

自動販売機「インテリアシリーズ」

大塚 義則(おおつか よしのり)

井上 正喜(いのうえ まさき)

奥村 英明(おくむら ひであき)

① まえがき

近年、大都市圏を中心としてオフィスビルの新築、改築が盛んに行われ、それに伴い自動販売機の設置環境も際立って変化している。

インドア（屋内）設置に加え、ビルのインテリアにマッチしたデザイン機の要望が顕著に現れてきている。

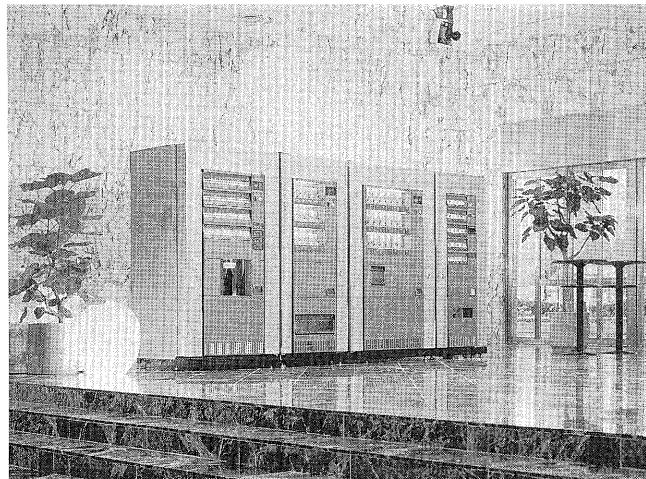
この市場要求にこたえるべく、屋内設置をターゲットにしたインテリアシリーズ機の開発・生産を行っている。加えて、平成4年度の通商産業省「グッドデザイン商品」に選定されるとともに、自動販売機としては初めて「オフィス・店舗部門」の部門賞に輝いた。

以下に本インテリアシリーズ機の概要を紹介する。

② デザインコンセプト

オフィスはもちろん、コミュニティ施設など、あらゆる環境（静かで落ち着いた空間、華やいだ空間など）に対しつきりとその存在を主張し、しかも調和する「調和と主張」をデザインコンセプトとしている。

図1 インテリアシリーズ4機種の設置例



③ インテリアシリーズの特徴

3.1 機種構成

シリーズ機は、カップ・缶・ペーパーパック・たばこ自動販売機の4機種から構成され、かつ4機種間でデザイン統一を図ったフルラインデザイン構成となっている。

インテリアシリーズ4機種の設置例を図1に示す。左から、カップ・ペーパーパック・缶・たばこ自動販売機で構成されている。

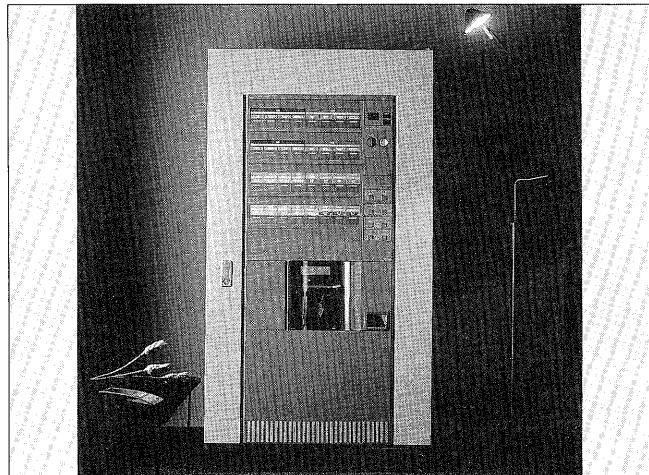
3.2 デザインの基本

周囲の設置環境と調和させ、高級感を演出することができるシンメトリック（門形・対称形状）構造をデザインの基本としている。

自動販売機の周囲を門形形状で囲い、内部に自動販売機として必要な操作・商品展示部を配置することにより、設置場所周囲のインテリアとの調和が可能となり、加えてシリーズ機単独設置はもとより、4機種フルライン構成設置においても、自動販売機として機種、個々の存在を主張できるデザインとなっている。

図2に単独設置例（カップ自動販売機）を示す。

図2 単独設置例（カップ自動販売機）



大塚 義則

昭和47年入社。カップ自動販売機の開発設計に従事。現在、三重自販機・特機製作所第二設計部課長補佐。



井上 正喜

昭和55年入社。たばこ自動販売機の開発設計に従事。現在、三重自販機・特機製作所第一設計部課長補佐。



奥村 英明

昭和50年入社。ペーパーパック自動販売機の開発設計に従事。現在、富士電機冷機製造(株)設計部課長補佐。



図3 押しボタン回りの外観



3.3 フルラインデザイン構成

すべて門形デザインで統一され、加えて、硬貨投入口、返却レバー、返却口、ドアロックなどの高さと、配置については4機種とも統一を図ったフルラインデザイン構成としている。

フルラインデザイン構成により、4機種併設を含め、複数台設置時の全体調和を図っている。

3.4 特殊塗装

シンメトリック部分には、これまでの自動販売機に見られない「石目模様」の特殊塗装を施している。ベースとなる塗装色の上に、白・黒（石目のマーブル色）の2色双頭ガンによる特殊塗装により、石目模様を作り出している。

シンメトリック内部は、表面が、しづ模様（凹凸・皮模様）のできる特殊塗装を施している。

この特殊塗装により、高級感にあふれ、落ち着きのある格調高いデザインとなっている。

3.5 押しボタン

商品選択用押しボタンは、プラスチック表面に金属ヘアライン光沢のホットスタンプ加工を施し、ハイセンスデザインの新しいフラット押しボタンを採用している。

押しボタンには、商品選択のスイッチ機能とともに、販売商品の売切表示機能が必要である。新しい押しボタンでは、売切表示機能をこれまでの「売切」文字点灯方式から、緑・赤LED発光色の切換（販売可能時：緑、売切時：赤）による表示方式に変えている。また、ピアナタッチ感覚の押し力を達成している。

新しい押しボタンの開発により、デザイン的にすっきり

とした感じに仕上げている。図3に押しボタン回りの外観を示す。

3.6 販売商品展示

販売商品の表示方法は、カップ・たばこ自動販売機では、販売商品を銘板に印刷した方式を、缶・ペーパーパック自動販売機では、実商品展示による方式を採用している。いずれの方式も、間接照明による展示を行い、加えて、缶・ペーパーパック自動販売機の実商品展示前の窓枠には、スマートカーペットの掛かったアクリル板を採用することで、落ち着きのある雰囲気を醸し出している。

3.7 返却レバー

コインメック内に詰まった硬貨の排除や返金を行う返却レバー部には、新しくワイヤケーブルを用いた機構を採用している。返却レバーの回転力を奥に配置されたコインメックに伝達することにより、限られたスペース内に、コインメック以外のビルバリデータ、または、プリペイドカードリーダを装備することができる仕様となっている。

3.8 本体仕様

自動販売機本体の仕様については、シリーズ4機種とも新たに開発は行わず、従来機の本体を使用することを基本としている。これは、部品の標準化を図るのはもちろんであるが、機械の操作、サービス性を、これまで扱ってきた従来機と同じ方法にすることに重点を置いたためである。

4 あとがき

インドア向け市場進出の足掛かりとして、インテリアシリーズ機の開発、平成4年5月から4機種量産開始を行い、今日に至っているが、この間冒頭で述べたように、富士電機の自動販売機として初めて「グッドデザイン商品」選定とともに、自動販売機業界として初めて「オフィス・店舗部門」の部門賞の栄誉に輝き、満足する市場評価を得たと確信している。加えて、自動販売機オペレータ以外のビルオーナー、建築部門関係者など、これまでと違った分野の方々から、インドア向け自動販売機についての貴重なご意見をいただき、これらを参考に、インテリアシリーズのより一層の機種ぞろえを行うとともに、壁埋込形インドア自動販売機など新しい自動販売機の開発にも努力していきたいと考える。

最後に、本インテリアシリーズの設計、製作にあたり多くのご指導とご協力をいただいた関係各位に深く謝意を表す次第である。



*本誌に記載されている会社名および製品名は、それぞれの会社が所有する商標または登録商標である場合があります。